

ワークシート（看護概論2）

**学習目標**  
事例を通して、急性期・回復期にある患者の特徴を知り、病期に応じた看護と患者の心理を考えることができる。

**事例紹介**  
島津さん（男性）56歳、朝6時ごろ突然の激しい痛みを感じ、起床する。「胸が苦しい」という声に妻が気づき、救急車を呼び、救急室に搬送された。来院時の血圧168/98mmHg、脈拍60回/分、呼吸数24回/分、SpO2 94%、体温36.2℃、冷汗あり、JCS Iレベルで「痛い、苦しい」という。苦悶様表情がみられた。心電図モニター装着、酸素吸入、静脈確保を行い、モルヒネ塩酸塩を静脈注射した。モルヒネ塩酸塩静脈注射後、胸痛は緩和。心電図・心エコーの結果、急性心筋梗塞と診断された。家族には医師から生命の危機的状態であることを、緊急にPCIを行わないと合併症である不整脈、心原性ショック、心不全がおき、最悪の場合は死もありうることを説明した。長女は泣きながら「お願いします」と言い、妻は呆然と島津さんをみている。

入院時の様子



**ワーク2** 島津さんの病気は（ ）期  
その判断根拠は  
①発症からの期間：長い・短い  
②症状の程度：重篤・軽微  
③治療の効果：効果大・少ない・なし

**ワーク3** 島津さんの心理  
ア、依存  
イ、不安・恐怖  
ウ、悲嘆  
エ、否認

**ワーク4** 島津さんの家族の思い

その病期に私たち（准看護師）がすべきこと

**治療優先**  
医師の指示を確実に実施する  
1. 薬物療法 2. 酸素療法 3. 検査介助  
4. PICの患者の準備

患者さんの立場にたった確実な診療の補助

第一位優先はア、生命  
イ、生活を護ること

**ワーク5** もう一つ重要な役割  
写真を見よう。  
看護師は何をしている？

合併症予防

心臓の仕事量を減少するためにすべきこと

日常生活援助

**グループワーク6**  
食事は？  
排泄は？  
清潔は？  
活動は？

心身の苦痛を軽減する事

**ワーク7** 島津さんの心身の苦痛を緩和しようと、傍について島津さんの話を聴く。  
[よい・よくない]

**ワーク8** それはなぜ？

**グループワーク9** あなたならどうする？

心身の苦痛の緩和をめざす准看護師の役割

**グループワーク1**  
知らない言葉（課題）を調べよう！

その後の島津さんの様子  
緊急に行われたPCI スtent留置発症後4時間で再灌流に成功。PCI翌日、心不全・重篤な不整脈なく経過は良好。バルンカテーテル抜去、昼から粥食開始、自立座位可能。PCI後2日目には立位可能で一般病棟に戻る。「動くと胸がまた痛くなりそうで怖い。でも、明日からは自分でトイレに行けるかもしれない。先生に生命を助けてもらった。」という。

島津さんの心理  
不安と期待

**ワーク10** 島津さんの病期は（ ）期  
その判断根拠は  
①発症からの期間：そう長くない  
②症状の程度：軽減  
③治療の効果：効果大・継続の必要性

**グループワーク11**  
あなたなら島津さんにどのような看護をする？

病期の特徴を踏まえた准看護師の役割